

WRI NewsLetter 35

1977年7月10日 大阪市あべの区旭町2-12-2 WRI-JAPAN

緊急連絡 | 事務所から

⊗ 東京↓広島立和行進に、ちよつとかいわつばかりに、エライことになりました。

もう事務所は連日、すべてをそのうちのけでズミを立て、あたりまこのことをあたりまゑとしてやりとおすために、大活動中。ノ・ノ・

そこで、猫の手でも借りたじおもいで、なかまのみなさんに、とくに行進至路のなかまには、広島まで歩きとおす決意のるり子はんに助力を！と訴えます。横断幕にプラカードそしてのぼり旗、さらにビラまきを、大阪を出るとタッタひとりでやりぬきながら、しかも、行進実行委からのさまざまな強圧（へもちろん支拂してくれる外人たちが大分できています）が、それも制約をうけています。を柳に風とうけながして、断乎、歩きとおそう！というのだから、コレハ並大抵のことじゃありません。勤めのある人でも、できれば休暇をとつて、一日でも二日でも同行、われらのるり子はんとしよに歩いて下さると、どんなにウレシイことでしょう。

8月6日広島着までの月日別経路（集合、休憩、到着地とその予定時間など、内合せて）

下さればおしらせします。それをみて行進にドッキングし、あとはWRI事務局 代表るり子はんと打合せて下さい。到着地付近での個別案内提供、合宿等のサービス、山道のカンパ、あるいはるり子はんを囲んでの小集会企画（要ある二人外人など同行もできる）もぜひよろしく。

立和行進 WRI日記

7月4日、東大阪市↓大東市（半日半日）るり子さん歩く。アメリカWRIは事務局から代表として送られたジム・ペックは、中史の指図？で、長崎↓広島のコースへまわったよし。

7月5日、城東区↓大阪府庁 るり子はん午後半日。向井や二時ごろより参加のつそりでコース途中で待受けるも都合わず、府庁終業にいくと、解散直前。マイクの前でさかん「平和行進実行委員会委員長」と話しあいつつこく喰いさがついている。Y君、黒旗をもつて半日参加、良心的軍事拒否の会のオーノさん、のぼりももつてそのそばに。とみるとるり子はん泣いて、外人にしきりに慰めら

立和行進 参加者乃阿以古登波 喫天尔乃里越 (ハル里日化学者のものを使った)

れてる。之は何事か「解散のことばのあと、マイクをかしてぐれ。今夜島の内教会でひらく、大阪のロビン大集会のしらせをみんないから」という由出に對し「実行委がそれを承認してないからダメ」というわけ。ホトに頭に乘ル「高性」というわけ。その夜の集會は、るり子さんのこの問題提起が中心になつて、12時すぎまで。

7月6日 天王寺公園↓中口へ大阪市内で最長コースとどりのサインや絵、ステッカーなどはつたウリの横断幕をか、けて、るり子はんを中心にふら、荷、HさんMさん。用意のビラをまくるり子、ふうせんはそのいのモンペに今帽子、の前後に大プラカード。ところが、このビラが又しても大問題。「前以て許可をうけてないからダメ」今年の原水禁運動の三原則がうたつてないからダメ。「反原爆その他の原則にも問題があるからダメ」まくなら行進からキートンはなれてまけ」でまたまた一両着。こちらははいくらをわねたつて、どうしたつてまくというわけ。まきつければ。外人Aがそれを見て、ぼくもまくと手位つてくれる。夜々Xがで、平和行進団を連れて小集会。その会になるべく出ないようと外人達が日本山妙法寺の誰かに言われたとか? 原水禁と原水禁の話もまたいたという外人四人にNさんが説明。その外、今日の出来事についてふら、るり子はんから発言、討論。帰

集は時すぎ。だが内連をなひで下さい。ぼくらがトランプルを知ろうとしてるのではない。平和行進をほんとうのものにするかしないか。が。このナヤやかな事件にみえる一点に、つていさ、そしていまそのせとがわたりと思ふからなひだ。誰でもハッしに歩く者の間で、おかげられる主張や立場が、他の仲間を誹論したり、それを排除否定したりするものでないかぎり、差をなひ、ということでなければそれは保証されなひ。自己の個人の主体的意志と責任で気軽に参加できる、それゆえ一党一派に偏しなひ平和行進、それこそが、真の統一を實現したものだからだ。

7月7日 原水禁代表として平和行進している日本山妙法寺の王氏から、中央の指令があつた。ビラをまくな」と、まいていさ最中のビラをとりあげられる。一しよにまいていた外人のも、もぎとる。「それは泥持行為である」とふうさんら抗議して返却をうけ、以後もまきつづける。有故無いか、三原則がはいつてないからという理由。夜妙法寺大阪道場で七夕会。かゆてWRU関係外人を歓迎の小集会もやりたいと申し入れていたところ、当夜きて一しよにということ。ビール・サンドイッチ。つまみ。ウリからもお供え。飯が出て外人たちも大げしやぎ。8時すぎ、突然、外人の一人から問題提起。ところが、その外、るり子はんから発言、討論。帰